



特定非営利活動法人 アイユゴー通信 第17号

〒590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内1-10-18

TEL : 072-452-8340 FAX:072-452-5680

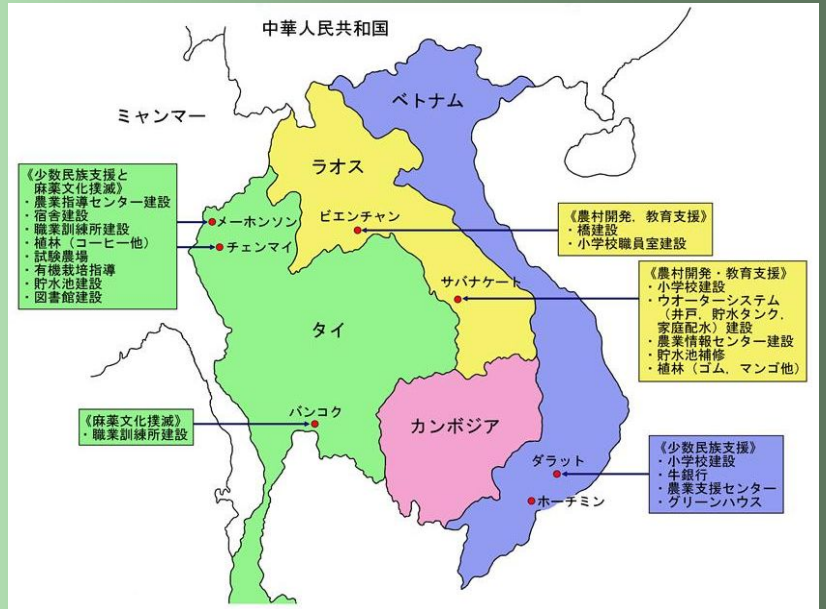
e-mail : snittaskmj0715@yahoo.co.jp

homepage : <http://aiyugo.fc2web.com>

目次

- (1) みんなの手で国際協力を！(ごあいさつ)
～アイユゴー 理事長 新田 幸夫～
- (2) 2010年度事業報告・決算報告
- (3) アイユゴー理事紹介 アイユゴーとの出会い
～アイユゴー理事 森川 嘉夫～
- (4) アイユゴーの活動に参加して
～ 大島 えみ ～
- (5) 現地の人たちと協働するための募金について

(右: アイユゴーの活動地域 2001年から2010まで)

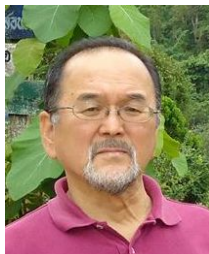


みんなの手で国際協力を！

特定非営利活動法人 アイユゴー理事長 新田幸夫

ごあいさつ

法人会員、正会員、賛助会員をはじめ、いつも本会の活動を支援して下さいの皆様には、多大なご理解ご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。



2011年3月25日に、本会は法人に移行し、6月26日に初めての法人の総会を開催して、新たな決意で出発を迎える年となりました。また、本年度は本会設立10周年の年であります。これまでご理解とご協力によるご支援をして下さった皆様には、深く感謝いたします。

3月11日の東日本大震災の発生に際しては、本会役員方々が、それぞれ地元の活動団体と共に現地にて支援活動を行ってきました。本会はその役員方々の総意によって、徐々に、復興に向けて協力していきたいと考えています。

この「アイユゴー 通信第17号」が、ご支援下さっている皆様ならびに多くの方々にとって、本会の活動をより一層ご理解いただく一助になりましたら幸いです。

貧困撲滅のための国際協力

アイユゴーは、2001年10月15日に「途上国の人と共に」をモットーに任意のNGO(非政府組織団体)として国際協力活動を始めました。私たちは、恒常的な、また、生命にかかわる貧しさから逃れたいと切望する途上国の地域の人たちとともに、

貧しさを克服すべき方法を考え出し、改善を図ってきました。貧困の原因は様々でありました。何もすることがないから何もしないと口にする者、政府は何もしてくれないとただ不平をもらす者、このような状況を回復していくには、長い時間が必要です。

私たちは、まず、その土地で活動する人々と共にいるという気持ちを、毎日、持ち続けることから始めました。その気持ちは、問題を解決する糸口を共に考え、アイデアを出し、アイデアを実践する準備を整え、前進していく、という一連の活動に対するモチベーションを継続してきました。そのために必要なことは、「日常的な国際協力」をするという気持ちを持続することでした。



アイユゴー主催「コーヒー基金」の参加者に感謝して名前が掲示されました。場所はメーホンソン県バンパー郡です。コーヒーは280ha、約214,000本を植栽しました。

日常的な国際協力

アイユゴーの国際協力は、特別なものではなく、日常的な

ものであると考えています。この地球上で一緒に今を生きているという意味で、常に「ともにいる」状況になれるといい、と考え続けています。仲間として、互いに助け合える精神ではないかと考えます。



＜有機栽培の説明会の開催を待つ住民と会場内で説明を聞く住民＞
(マダガスカルにて)

途上国の人が「いつまで協力してくれるのか」と言うのを耳にすると、この人たちはすでに「援助なれしているのではないか」と言われよう。村の中には、本会からのプロジェクトに参加し一所懸命に働くもの、仕事を与えられて嫌がるもの、他人が働くものをじっと見ているだけのもの、いろいろな人がいます。先進国の人からすれば、「貧しい人は生産しなくて、ただひたすら消費しているだけではないか」と考える人もいます。しかし、私たちと共に、貧困撲滅を目指してがんばろうとする現地の人にとって、私たちと共にいることは大きな励ましとなっています。

私たちは、それぞれの地域の貧困を撲滅するためには、その地域にあった新しいものを創成することにし、テーマ掲げて、村人を一体化して、取り組んできました。

対象国	開始時期	主な地域	テーマ	主な植栽樹木
タイ	2001年	メーホンソン県	麻薬文化撲滅	コーヒー(21万本)
ラオス	2002年	サバナケート県	経済的自立と 緑の村創り	ゴム(2万本)
ベトナム	2003年	ラムドン県	少数民族の 自立支援	コーヒー・野菜類
マダガスカル	2007年	アンタナナリボ州	植栽と青年への 販売指導	パイナップル (20万本)

貧しい現状を打開するために、アイユゴーが最も大切な活動と考えたことは、保護を求めてきた人を救済するための場所を建設することでした。それが貧困撲滅のための現地の活動拠点となり、彼らにとっての学びの場所となるからです。それが、農業支援センターであります。続いて、宿舍、試験場、井戸、タンク、パイプライン、グリーンハウスなどのウォーターシステムを整備してきました。さらに、職業訓練所や基礎教育のための小学校と図書館などを建設して、人材育成のための教育環境を整えてきました。



＜小学校建設に協力する村人＞(ラオスにて)

2010年度事業報告・決算報告

2010年度事業報告(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(1)教育支援プロジェクト

(Ⅰ)ラオス中部における小学校建設および教材配布

＜国際ボランティア貯金様からのご寄附＞(総額:5,343,389円)



老朽化が進んだ教室で授業をすることが困難となり、雨が降るとは、村長宅か寺で授業をせざるを得ない。教師と親たちは他校の子供たちとの格差が出ているとの危惧を抱きつつも校舎を建設する資金がなく、支援することとしました。

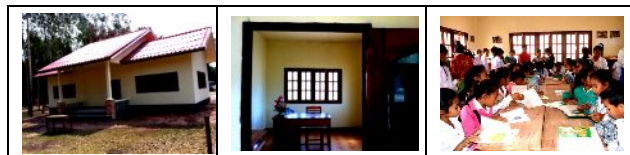
(Ⅱ)ベトナムにおける少数民族のための小学校建設

＜2011年度に申請予定＞

(Ⅲ)ラオス中西部における図書館建設

＜ひろしま・祈りの石国際教育交流財団様からの助成金＞

(総額:1,925,023円)



劣悪な教育環境と、長い雨期休暇(7,8,9月)という状況の中で子供たちの自発的な向上心を高め、世界観を広めることを目的に、図書館を提供しました。

(Ⅳ)ガスカルにおける職業訓練所建設 ＜現地と再検討中＞

(2)農業地域開発プロジェクト

(Ⅰ)タイ少数民族のための農産物貯蔵庫建設

＜国際ボランティア貯金様からのご寄附＞(総額:2,530,228円)



パーンマパー郡の農業情報センター長のソムヨツツ氏が少数民族の村を巡回し、コーヒーなどの植栽ならびに有機農法の実施指導を行ってきました。しかし、収穫したものを集約的に管理するには資金がないため、収穫物の管理、市場化に向けた対策として、貯蔵庫を建設しました。現在、少数民族の経済的自立支援と森林保全活動を継続して行っています。

(Ⅱ)ベトナム農業情報支援センターにおける少数民族のためのパイロットファーム建設(フェンス設置)

＜国際ボランティア貯金様からのご寄附＞(総額:2,025,202円)



現場は、2009年度に農業支援センターとグリーンハウスを建設した敷地の周辺をフェンスで囲み、牛・豚などの家畜類が侵入しないようにして、現地の少数民族に農業を現場指導するパイロットファームを建造しました。

(Ⅲ) マダガスカル環境保全のための植林と農業支援

<国際ボランティア貯金様からのご寄附> (総額:3,461,951円)



<(1)コンポストの構造を現場で指導するソムヨツツ氏(タイ)、(2)防火帯造設・植栽・管理を指導する柴田専門家(岡山県)、(3)パイナップル販売のために若者たちとの打ち合わせ> ソアナベラ区の農民1,300人に、パイナップル、シナモンの苗木を供給し、有機栽培の専門家による現場指導を行いました。パイナップルはマダガスカルの市場で販売され、シナモンはオイルを抽出し薬品に加工します。このたびは、タイの有機農法の専門家ソムヨツツ氏を現地に派遣し、現場で実施指導を行いました。

(3) 神戸大学大学院保健学研究科との共同事業

保健医療と社会福祉の合同セミナー(アイユゴ通信第16号)

<三菱UFJ国際財団様からの助成金> (総額:679,772円)

(4) 日本の国際協力事業へのアドバイザーとしての参画

津山国際交流の会との共同プロジェクト

「ベトナム・ダクラク省クロンノ郡(Xa Krong No)

レンクツラック(Lien ムノン族小学校建設の無償建設)事業への

参画<(特活)津山国際交流の会>

(5) 自主事業(ワークキャンプ)

本会での事業現場で、村人と文化・技術の交換を通じた交流。

(Ⅰ) ベトナムの農業センターにおいて食育文化交流

<『アイユゴ通信第16号』参照>

(Ⅱ) タイ北部の少数民族との文化交流 来年度へ継続

(Ⅲ) 保健医療と社会福祉の合同セミナー

<『アイユゴ通信第16号』参照>

(Ⅳ) マダガスカルの農業支援 来年度へ変更

(6) その他

Table with 2 columns: Item, Amount. Rows include: 6. 現地管理費 (131,781), 7. 国内事業費 (1,163,664), 事業費小計 (16,098,752), II 事務管理費, 1. 事務所管理費 (673,231), 2. 交通費 (124,460), 3. 宿泊費 (24,430), 4. 食事費 (50,378), 5. 協力費 (0), 6. 会議費 (41,490), 事務管理費小計 (913,989), 支出合計(B) (17,012,741)

* 会費収入 : 会員 一口 12,000 円、賛助会員 一口 3,000 円、法人正会員 一口 120,000 円、法人賛助会員 一口 30,000 円

* 寄付金収入 : 国際ボランティア貯金 [マダガスカル 有機栽培農法の指導の実施(¥3,395,000) タイ 農作物用貯蔵庫の建設(¥2,135,000) ラオス 小学校の増築及び教材の配布(¥4,598,000) ベトナム 農業情報支援センターの設備増築及び有機農法指導(¥1,825,000) 助成金収入: 菱UFJ国際財団(¥500,000)

アイユゴ理事紹介 アイユゴとの出会い

特定非営利活動法人アイユゴ理事 森川 嘉夫氏

私は大阪府立大学で40年間、教育と研究に従事し、停年退職後、近畿大学生物理工学部で7年間、非常勤講師として生物学の講義を担当し、現在は看護専門学校で非常勤講師としております。近畿大学へ非常勤講師として出向いた初日に、講師控室で同じ講師として出会った最初の人が新田幸夫アイユゴ理事長です。



大阪府立大学での教育と研究ですが、教育は獣医学の中のものよりも基礎的な科目である獣医解剖学を担当し、研究はラットという実験動物を用いて母親の体内にいた胎子が生まれて新生子になる時期に体の中でどのような変化が起こるのかということを光学顕微鏡や電子顕微鏡を使って調べ、興味ある結果を得ることができました。私が研究者となつてはじめての研究論文が、Nature という英国の科学雑誌に掲載された時は大変うれしかったです。

私がアイユゴの会員になったきっかけは、停年退職後に何らかの社会貢献を考えていた矢先に、新田理事長からアイユゴのことをお聞きし、その活動内容に関心をもったことです。私自身、獣医師免許はあるものの基礎的研究をしてきたため、動物の病気の診断や治療といった臨床面で途上国の人々の社会に貢献できるかどうか疑問です。しかし、私の知識と経験がアイユゴのグローバルな活動に少しでも役に立てばと思い、今のところは時間が許せば、泉南郡熊取町にあるアイユゴ事務局に出かけて新田理事長と一緒に事務局の仕事をしております。

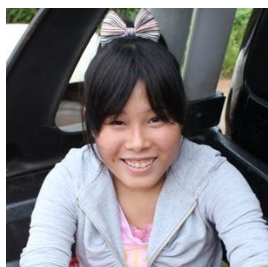
2010年度収支決算(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

Table with 2 columns: Item, Amount. Rows include: 1. 会費収入 (918,050), 2. 寄付金収入 (12,530,106), 3. 助成金収入 (500,000), 4. 自主事業収入 (1,678,640), 5. 雑収入 (110), 6. 繰越金 (1,235,835), 7. 借入金 (174,635), 8. 未収入金 (0), 収入合計(A) (17,037,376), I 事業費, 1. 資材費 (9,808,370), 2. 現地事業運営費 (520,393), 3. 現地スタッフ経費 (871,464), 4. スタッフ・専門家派遣経費 (3,503,080), 5. 事前調査費 (0)

アイユゴーの活動に参加して

参加者 大島えみ

私は、今回アイユゴーの人たちと一緒にタイに行かせてもらいました。アイユゴーでは、色んな所でコーヒーの苗を植えたり、トウモロコシなどを作っていると聞き、メホーソンに植えてあるトウモロコシやコーヒーを見させてもらいました。



私は、コーヒーが何でできているかまったく分からなかったのでもっとも勉強になりました。

コーヒーは、あまり直射日光のあたる所では、育ちににくらしく自然の樹木の中に植えてありました。けれどトウモロコシは、木があると逆に育ちににくく枯れてしまうので、木を切って育てているらしいです。コーヒーはトウモロコシと比べて、自然の樹木を切らなくて栽培できるので、コーヒーを作るのはとても良いと聞き、そんなことまで考えていてすごいなと感じました。

チェンマイでは、現地スタッフの和田さんからタイの交通事情のことを聞き、私のタイのイメージは、みんなが笑顔で優しい人たちと感じていましたが、マナーがとても悪く悲惨な交通ルールの現状をお聞きし、すこしイメージが変わりました。日本では事故を起こすと、被害者に対してとても大きな賠償責任が課せられます。けれどタイでは日本ほど大きな責任が無いとお聞きし、私はこれを聞いて正直、日本に産まれて良かったと思いました。またこの問題はタイだけではないと言っていたのにも驚きました。

今回タイに行きいろんなことを体験し、いろんな話を聞き、とっても良い経験になり、そして勉強にもなりました。また機会があったら、タイに行きいろんなことを体験もってタイの事を知りたいと思いました。



タイの道路の状況



継続している古着の寄贈



親子でのツーショット(左 大島理事)

現地の人たちと協働するための募金について

これまでの様々な活動に対して、生活環境の改善、農村開発に伴い、その充実と同時に、これからは村人の自立への具体的な指導及び支援が必要となります。

1) タイ・メーホンソン県バンマパー地区 **60万円**

タイ、メーホンソン県バンマパーの人たちはコーヒーが商品となる過程を知りません。そのために隣のチェンライ県の村で行っているコーヒー工場の見学をしたいと考えています。

2) マダガスカル・アンタナナリボ州 **20万円(1基):計12基**

マダガスカルでは、飲み水に不足し、住民の健康状態がよくありません。共同の井戸さえあれば、という願いを毎年のように掲げています。友人とまたグループでお小遣いを出し合って、自分たちの井戸を寄贈しませんか。井戸にグループ名を付けてマダガスカルの人たちと友達になりましょう。

アイユゴーは地球上の人たちと共に

アイユゴーは、日本人の一人一人の手で、海外の人たちと手を組み、地球上にある貧しさの一つ一つを解消する努力をして、地球上の人たちとの友好を深めていくチャンスではないかと思えます。世界の様々な問題が噴出しつつ、経済的にも、政治的にも、私たちの生活に徐々に差し迫ってくるのを感じます。こういうときこそ、地球上の人たちと共にできることをしていきたいと思えます。

アイユゴー 概要

団体名 特定非営利活動法人 アイユゴー

設立 2001年10月15日

団体資格 特定非営利活動法人(2011年取得)

資産総額 金0円

事業目的 この法人は支援を必要としている途上国において、我々が持っている知識や技能、経験を提供し、自立を目指す様々な現地で活動を行うことにより、その地の自然、社会、歴史、文化を尊重し、人との交わりを通して相互理解を深め、草の根の友好と親善に努めることを目的とする。

会員 正会員 48名 賛助会員 34名

事務所 大阪府泉南郡熊取町小垣内1-10-18

事業地 タイ、ラオス、ベトナム、マダガスカル、日本

【感謝】

(特活)アイユゴー通信をご覧いただき、誠にありがとうございます。私たちは自らの知識・技術・経験と奉仕の精神を持って、協力を必要とする人たちの自立を目指した開発援助を通じて、その地の文化を尊重理解し、草の根の友好親善と、自らの人間としての価値を高めることを目的とし活動します。皆様のご参加・ご協力を心からお待ちしております。

e-mail: snittaskmi0715@yahoo.co.jp HP: <http://aiyugo.fc2web.com>

【振込先】

[特定非営利活動法人 アイユゴー 理事長 新田幸夫]

三井住友銀行 阿倍野支店 : 7,479,470

ゆうちょ銀行 : 00930-9-144252

発行: 新田幸夫 編集: 加藤鐘三 発行者: (株)フジカク